

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年5月4日

【評価実施概要】

事業所番号	2893900015		
法人名	社会福祉法人 勝心会		
事業所名	グループホーム 清音		
所在地	兵庫県赤穂郡上郡町与井42番地1 (電話) 0791-52-7020		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地		
訪問調査日	平成21年4月15日	評価確定日	平成21年5月4日

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

兵庫県南西部を流れる清流千種川沿いに、2008年5月に新設された、すっきりした2階建てのホームである。近隣には、消防署や協力医療機関の整形外科医院があり、窓からは山や川岸、民家が見える静かな生活環境である。上郡町の地区では初めてのグループホームであるため、手探りの面もあるが、熱意のある管理者はじめ職員が意欲的に取り組んでいる。吹き抜けの玄関ホールを通過して、食堂に入ると、穏やかな表情の利用者と笑顔の職員が迎えてくれた。この地域の中で利用者が安心して生活できる住まいや環境づくりを近隣の人たちと一緒に取り組もうとされている。利用者、家族、地域住民にとって「守られ、大切にされる場所」になれる住まい創りを目指そう”を基本に。今後が楽しみなホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)	今回が初回の評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)	今回は管理者と一部の職員で自己評価を行なっている。管理者はじめ職員は第三者評価の評価項目について前向きに取り組む姿勢があつて、できるところから積極的に実行していきたいと話されていた。職員への浸透は今からだが、管理者は熱意をもって取り組まれているので今後に期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)	2ヶ月ごとに、家族代表、自治会長、地域代表、町議会議員、町の行政の課長などの参加を得て、開催されている。パワーポイントを用いてホームでの暮らしぶりを紹介したり、地域との交流に繋がる取り組みを行っている。今後は、参加メンバーの幅を広げて、より地域との交流やホームの運営やサービス向上のために運営推進会議が活かせるように試みてほしい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)	面会に来られたときや、電話での報告時に、利用者の暮らしぶりや体調の変化などを伝える機会にしたり、訪問カードを作成して記入できるようにしている。今年は、アンケートの実施予定もあり、今後の取組みに期待している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)	自治会、老人会への加入はしていないが、地域の行事へ招待を受けて参加したり、近隣の住民との挨拶や声かけなど、日常の散歩や買い物などの生活の場面で自然に行われている。今後も、運営推進会議等も活用して、さらに一層地域との関わりを増やし、この地域でのホームの役割を果しながら、地域の事業所や住民の皆さんとの連携を深めていかれることを期待する。

【情報提供票より】(平成21年 3月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成20年 5月12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 17人, 非常勤 4人, 常勤換算 17人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 500 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(3月16日現在)

利用者人数	14 名	男性 3 名	女性 11 名
要介護1	3	要介護2	4
要介護3	4	要介護4	3
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 85.7 歳	最低 76 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡田整形外科、大岩診療所、白岩歯科医院
---------	---------------------

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は、熱意をもって地域密着型サービスとしての意識をしており、法人本体の理念をもとに、ホーム独自の理念を創りあげている。住いであること、個人を大切にすることを盛り込んで、日々のケアに取り入れている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週月曜日に、職員で唱和をしている。日々の生活の中でも常に理念を意識し全職員で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	1月のとんどや氏神様のお祭りなどには、利用者と一緒に出掛けている。サマーボランティアスクールにも協力している。近所の会社との野菜作りなどでの交流が始まっているが、地域との交流については老人会がないこともあり、十分交流できているとはいえない。		現在出来る交流や取り組みは始まっているが、より多くの地域の方との交流の輪を広げていくためにも、気軽に訪問してもらえるような行事や取り組みを検討され、すぐ前の消防署なども含めて今後の取組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の初めての評価を受けるにあたり、管理者はじめ職員はその意義を理解し、今後の日々のサービスの質の向上に活かせるよう意欲的に取り組んでいる。		今回は、一部の職員で自己評価を行っていたが、今後は是非、全員で評価内容を検討し、改善や新たな取り組みを試みてほしい。職員の資質向上も日々の改善取組みもひいては利用者の満足度にもつながるので、具体的で身近な項目からの取り組みを期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月ごとに開催されている。構成メンバーは、家族代表、自治会長、地域の代表、町議会議員、町の行政の課長など幅広いメンバーで行われており、議題には、ホームの中の様子や行事などについて画像で用意して、地域の方にわかやすくしている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域の事業者連絡会があって、行政担当者とは、日頃からホームや利用者に関する相談ができています。この地域での唯一のホームであることもあり、相談もしながら利用者にとってのより良い住まいづくりに取り組んでいます。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりについては、必要な時には電話で随時伝えているが、面会時にお話しすることもある。現在は、利用者の家族への定期的な報告には至っていない。</p>		<p>利用者の家族には、個々の利用者に合わせて定期的な報告があるのが望ましい。日々行っているホームでの生活の様子や行事があった時、また体調の変化や金銭管理についても書面で行うことも検討してほしい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>訪問カードを作成して、家族が来られたときに、記入をしてもらっているが、全ての方が記入してくださるわけではない。</p>		<p>今年度、アンケートを行う計画があるとのことで、気軽に家族が意見や苦情などを引き出せるシステムをつくられることが望ましい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者の日々の生活に支障がないように考慮して、できるだけ異動がないようにしている。利用者と職員のなじみの関係を大切にしており、やむを得ず異動や退職が決まった場合は、引継ぎの期間を検討する。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が行う研修会には参加している。自主参加であるが、参加している職員もいる。ホーム内も管理者が行う勉強会や、外部研修では、防火管理や認知症についての研修に参加もしている。		運営者及び管理者は、ホームの職員の個々に応じた研修の計画を立てて、法人内外の研修受講の機会をつくり、その記録や資料等の整備をされるのが望ましい。非常勤の職員にも参加しやすく、欠席した職員に伝達講習の機会をもち、わかりやすく資料の作成と保管、そして必要な時にすぐに見られるようにされるといいのではないかと考えている。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会に3回参加して、ホームについての話をしている。現在、この地域では、最初のグループホームであるので、同業者はないが、周辺地域のホームへの研修などをさせてもらって、開設を迎えた。今後もサービス向上のための交流は続けたいと考えている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初は短時間の訪問から開始して、泊まりへと利用者の状況によって、無理なくサービスを利用できるように柔軟な対応で工夫している。見学からお試しの利用や事前の面談から、家族に来ていただいてからの利用など、それぞれの利用者によって対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶことを共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が安心して暮らしていけるよう、介護するだけでなく、お互いに頼られる関係と信頼関係を築いていて、日々の生活を送っている。生活の中では、食事の味付けから季節の行事などについて利用者から学ぶことは多く、管理者はじめ職員はこれからもこの関係を大切に継続したいと毎日取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の立場になり、聴く姿勢を大切に伝えていたり、関わっていくことを実践している。一人ひとりの利用者じっくりと接していくことで、個々の思いを受け止め、支援している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を作成する際には、本人及び家族等の希望を聞いて、アセスメントを行い、関係者での話し合いをしている。利用者の毎日の生活がより良くなるように立案している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の心身の状況の変化や急に体調が変わった場合などには、現状にあった対応やケアをしていくために、本人や家族や関係者が話し合い、計画の見直しを行って、計画を変更している。常により良いケアを提供できるよう支援している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の状況によって、利用者が急病で通院が必要な場合には職員が付き添って介助している。近所の方が立ち寄られることもあり、事業所でできる柔軟な対応をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者のかかりつけ医は町内の医療機関がほとんどであるが、入居前からのかかりつけ医を尊重し、ほとんどの利用者がそのまま変えずに利用されている。また、その通院の介助も基本的には家族が行うが、場合によっては適切に支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時には、利用者の体調が急に悪くなった場合や、重度化したときのことについて家族と話し合っている。現在、ホームとしては重度化や終末期に向けた方針は文書化されていない。</p>		<p>今後、利用者の介護度が重くなることも予想して、重度化や終末期になった場合に向けたホームとしての対応やできることなど、家族の思いやかかりつけ医等との話し合いが重要になる。ホームとしての方針を文書化し、職員で共有した上で家族等と相談することが望まれる。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>法人での研修で、プライバシーの確保についての話が行われている。また、職員は守秘義務についての誓約書を提出している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員側の業務の流れでケアをするのではなく、例えば、朝食の時間は利用者が起きてから食べていただくようにしている。散歩や買い物も行きたい利用者とはできるだけ出掛けるようにしており、部屋で読書やゆったり過ごしたい利用者には別の機会に誘っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットごとに買い物から献立、調理に配膳、後片付けを利用者と一緒に行っている。調理が得意な人、配膳が役割になっている人など利用者の得意なことを一緒にすることが日課になっていて、食事の時間が楽しくそして毎日の生活の一部として職員は支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームや職員の都合で入浴の時間を決めるのではなく、利用者の心身の状況や声かけをして、午前や午後、夕食後など希望に応じた時間帯に入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で、洗濯物たたみや食材の買い物など利用者個々にできることや楽しくできることを見つけて、それぞれに役割をもつていただく支援をしている。家族からは面談時等に今までの生活の様子などを聞いて役割づくりにも役立てている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在では、利用者全ての方への希望に沿った外出支援はできていない。日々の暮らしの中で、希望のある方には、その都度できる人数で散歩に出掛けている。程よい距離に腰掛けのある公園までのコースと、遠回りの散歩コースがあって、利用している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは、夜間以外は鍵をかけないケアを実践している。玄関の出入り口も、オープンになっている事務所で、出掛ける利用者に声かけをするなどして対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>ホーム内での避難訓練は行っているが、災害を想定して、地域住民も含めた災害対策は検討中である。</p>		<p>地域の中で暮らしていく中で、災害対策は近隣の住民も含めて大切な事項であるので、運営推進会議等との連携そして、すぐ前にある消防署とも日頃からの交流を含めて、働きかけをしていってほしい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>日々の食事の摂取量や水分確保については個々の体調を含めて記録されている。体調の変化や、状態により支援をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関を入ったところには、オープンな事務所があり、横にはソファが置かれて誰でもくつろげる。食堂にも椅子やソファが適度に置かれて、訪問当日も利用者が座っておられた。置物や壁面の飾りや表札など職員や利用者の手づくり品も増えて、居心地よく過ごせる工夫がされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、使い慣れた筆筒や引き出し、椅子や机などが置かれて、利用者が早く馴染めるように配慮されている。地域の小学生からもらった絵や作品も飾られていた。又、入居が決まったら家族へ相談がされて、本人のお気に入りの物などを出来るだけ持ってきてもらえるように相談している。</p>		

 は、重点項目。